



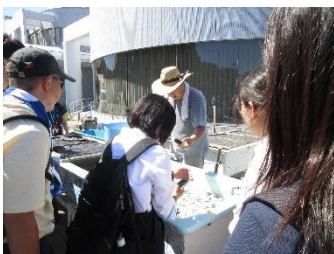
8月22日(水)は、逗子市、三浦市、葉山町の初任の先生方(28名)の研修に同行しました。内容の企画にも参加させてもらいました。

午前中は、NPO法人小網代パール海育隊の活動を見学。副理事長の日高さんから、三浦の小学生に内容を伝えるための苦労や工夫についてお話を伺いました。参加者は、アコヤガイの実物を模したのものや、アマモの説明に使う飛び出す絵本などに感心していました。

その後、出口理事長の船で、小網代湾をクルーズ。真珠のいかだやマダイの中間育成場所はもちろん、海の標識や灯台の役目、潮目の話等、実際に海上から見ないと分からないことも学習できました。現地に行ってみると、油壺湾が台風時の避難泊地になっている地形的な条件がはっきりわかりました。ちょうど、台風前で、ヨットがすでに集まり始めていました。また、日本の潮位の基準となっている検潮所も海から眺めることができました。



午後は、城ヶ島の三崎恵水産へ。三浦の小学校が実際に訪れているマグロの加工場と超低温の冷蔵庫を見学しました。-60℃の冷蔵庫で、震えあがった後、冷凍マグロを材木のように裁断する様子を見学しました。案内役の石橋さんは、インターナショナルに活躍されている方で、「三崎のマグロ」に対する熱い思いが伝わってきました。



最後は、県水産技術センターへ。ちょうど、キャベツウニのえさやりの場面に当たり、参加者は興味津々でした。始めに、職員の方からスライドを使った説明を受けた後、施設見学。プランクトンの培養から、サザエやナマコの栽培漁業の様子について、詳しくお話しいただきました。



参加された先生方にとって充実した研修になっていれましょう。



三浦市からの参加者の感想より
・今回の研修を通して、三浦市のために、多くの方が想いを込めて活動されていることを、子どもたちにも知ってほしいと強く思いました。海のため、人のために、多くの人が努力を重ね、繋がりを大切にしながら活動していることや、



それにより得たものを、次の世代、また次の世代へと受け継ぎ、三浦市の文化を守っていきたいと思いました。

私も三浦市の教員として、また、生まれ育った三浦を大切に思う一人として、自分にできることをしていきたいと思います。「海は危ないところ」という認識だけではなく、「海は生き物の宝箱」と子どもが思えるような活動を実現できるよう、私自身も海洋教育について学んでいきたいと思います。大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(文責 事務局長 渋谷)